議題６　平野総合病院の非稼働病棟※の再稼働について

説明者	平野総合病院　平野理事長
説明概要	資料６「非稼働病棟の再稼働について」に基づき、現状、今後の予定、医療従事者確保の方針、地域医療構想との整合性等を説明。 ○地域医療構想、周辺環境、当院の状況を鑑み精査した結果、岐阜市北西部地域における地域包括ケアシステムの中心的な役割を担う医療機関を目指し、一般病棟147床（地域包括ケア病棟38床含む）とともに、現在の非稼働病棟を在宅への回復期機能をもった「療養病棟」52床に転換。 ○療養病床は特別入院基本料から開始するため、再稼働にあたり看護職員は新たに9名必要となるが、現状の配置数で対応可能。一方、看護補助者に関しては13～16名不足であり、今後新たに採用する必要がある。無料職業紹介所（看護協会ナースセンター）、有料紹介会社などと求人情報を十分に共有し活用するとともに、職員による紹介、広告媒体（新聞、折込チラシ、フリーペーパー等）による求人も積極的に行う。 ○当院では現在非稼働病棟52床を「療養病棟」へ転換して再稼働する計画であり、在宅等へ向けての橋渡しと位置付けており、「回復期」の役割を担うことを想定している。従って、県の医療構想に沿うものと考えられる。 ○当院は地域の高度急性期病院（岐阜大学病院、岐阜市民病院、県総合医療センター等）、地域の基幹病院（岐阜赤十字病院等）と機能分化を明確にし、回復期機能、慢性期機能とともに、在宅医療等の充実を図り、地域のニーズに十分対応できる医療機関を目指している。具体的には、高度急性期患者退院後の受け皿的機能とともに、地域のクリニック、介護施設、在宅からの受け入れ機能を充実させ、連携を強化して対応していく構想である。 ○地域医療構想、周辺の医療・介護環境、当院の環境等を総合的に精査し、現在非稼働病棟の52床を療養病棟に転換し、再稼働することが、岐阜市北西部を中心とした地域医療と介護によりよい環境を提供し貢献できるものと考えられ、再稼働を予定している。
質疑等	○既存の急性期病棟の中に、回復期相当の患者がいるにも関わらず、それ以外に回復期を52床再稼働して、病床の融通はうまくいくのか。90日以内の方の平均在院日数を出すべきではないか。 　⇒90日越えの患者以外は、10対１を届け出ており、平均在院日数は21日以内である。 ○平均在院日数が21日と15日とでは大きく違う。在院日数がそれほど長くない人がどれほどいるかという話であり、長い人がどれくらいいないかということが重要。 　⇒現在は回転率が良いので、平均在院日数は18～19日 ○地域連携状況の中で、「当院のグループ内には老健等を有しており、連携が非常に取りやすい状況にある」と記載があるが、院内の連携を進めていくということか。それとも、訪問看護ステーション等を開設し、地域の医療機関との連携を図っていくのか。 　⇒高度急性期病院、地域の基幹病院等の受け皿となることを想定。ポストアキュート、慢性期の急変等に対応するほか、地域の医療機関、施設との連携をより強固にする必要があると考えている。
協議結果	反対意見はなく、了承された。

※1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床のみで構成される病棟